

自己評価報告書(最終報告)

報告者

芸術系コース(美術)
／小川 勝

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ. 学長の定める重点目標

Ⅰ－1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

①将来教壇に立つ学生に、教採対策だけの付け焼き刃ではなく、どんな状況でも対応できるような柔軟な基礎力を身につけてもらうような内容をより洗練させる。
②そのために、受講生自身が自分自身で考えられるような、問題意識を中心とした授業を構築してゆく。
③ただの知識の蓄積ではなく、自分自身の目で美術作品を見て、自分自身のことばで語れているかどうかが重要であり、教壇でも、そのような力紙に着いている教師が、児童生徒の信頼を勝ち得ることだろう。

2. 点検・評価

①試験やレポートなどで、学生の力量を計ったが、まだまだのところもあり、今後もさらに授業を充実してゆく必要性を感じた。
②一方通行ではなく、受講生の積極的な参加と発言を求め、それをフィードバックして、双方向的な授業をより洗練させなければならない。
③受講生は教員になった後も、児童生徒からも学ぶ姿勢を保つ、常に自己練磨できる力を身につけさせることがさらに必要となるだろう。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

教育では、従来通りの科目を担当するが、常に、内容を精査し、受講生の将来にわたる実践力の強化につながる講義、演習を行う。
学生生活支援では、学部2年生の担任になるので、学習ノートの記入など、全員が教員志望の意志を持続できるように指導してゆく。

2. 点検・評価

授業の中で、常に教員としての自覚を得るように促し、教師になった後でも、問題意識を持続して、よりよい教師になり続けようとする姿勢を身につけさせようとしたが、まだまだのところもあったと反省している。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

現在、科研の基盤研究(A)を得て、共同研究を邁進しているが、2011年度は最終年度であり、現地調査に加えて、調査・研究の記録集を発行し、それを通して研究成果の社会還元を行いたいと考えている。

2. 点検・評価

海外調査を2度にわたって遂行し、また年度末には、4年間の基盤研究(A)の調査研究活動をまとめた報告書も印刷し、有終の美を飾ることができたのではないかと自負している。今回の全国的な共同研究により、わが国においても、先史岩面画という研究分野が浸透し、様々な局面で話題になり、議論の対象になることも多くなったと自負している。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

引き続き情報整備委員として、学内の情報環境の整備に尽力したい。

2. 点検・評価

情報整備委員として、学内の情報環境の整備に尽力した。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

附属学校とは「フィールド」の担当者として、より緊密に担当者と連絡して、連携を充実させる。
国際交流は、ユネスコ傘下の世界文化遺産諮問学術機関のイコモスのメンバーとして、世界各国の専門家と連絡を密に取り、特に今年度は国際学会で、多くのメンバーと直接面談する機会があるので、より豊かな交流ができるだろう。

2. 点検・評価

「フィールド」の担当者の一人として、学生の指導に当たった。
社会との連携・国際交流では、ユネスコ傘下の世界文化遺産諮問学術機関であるイコモスのメンバーとして、活動した。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

洞窟壁画・先史岩面画の専門的研究者として、社会的にも活動し、本学の盛名をあげたと自負している。